

警城時報

行發日二廿

編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 警城時報社
發行所 警城時報社
一部金貳圓(一月金貳圓)
廣告料一行十四字計五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

小名濱港本年の水揚

二百萬圓を突破せん

二十萬圓以上の漁獲船

小名濱町に於ける揚網漁業は、一昨年以來目覚ましい活躍ぶりであるが、今年度も断然縣内他港を壓し二十萬圓以上の水揚をなした漁船が五隻を數へるに至り活況を呈してゐる、現在までの大漁船は共徳丸の三十萬圓を筆頭に諏訪丸二十八萬圓、機運丸同、勝力丸廿萬圓、寶來丸十九萬圓等、その他にも十五萬圓以上の水揚をした船が相當あり、同年内の水揚は三百萬圓

平、石城郡 特別補給金

石城郡内市町村特別補給金額左の如くである

- △渡邊五一二回△小名濱八五
- 九四△植田一三〇△八鹿島九
- 六九△湯本二四四△大野二
- 一一四△飯野一八一
- △平市一六二八六回

歳末の便に備へ

平局休日抜き

紀元二千五百九十九年と備局と歩調を合せて師走の慌だしが一旬に迫り三度び取越下の正に對處し二十四日の日曜日と月を迎へるわけであるが、歳末二十五日の祭日には休日が二日も自肅自戒の氣分を街頭に反映し、一般公衆の便して飾り氣のない戦時下らしい宜に備へて二十四日は特に爲替歳末風景を展開してゐる、然し貯金、保険、年金等の現金に關矢張り銀行の窓口や郵便局の窓を三十一日も日曜日に當るが同様に口には悪い金の取引で難路を三十一日も日曜日に當るが同様に呈してゐる、平局では全額郵便窓口事務は休まぬ事になつた

吏員、教員のボーナス

五割以上を支給

町村長會で申合せ

石城郡町村長會は二十二日午前十時から平市マルトモホールに

一、口腔外科
二、レントゲン科
中野齒科
平市田町(電五〇九)
院長 中野 惠次

恒久的條件で 毒ガス問題解決

錦村吳羽人絹工場の毒ガス問題は年々工場側と被害地錦村民との間に紛争を續けてゐるが、兩者の歩み寄りによつて左の如き永久的賠償の解決を見た

昭和九年錦工場操業開始以來紛争の種となつてゐた八町余の果樹園は會社側が二萬一千で買上げる、稲田は目下協議中であるが昨年度の賠償額は二千五百圓であつた

錦村の助役推薦 村議補選後にする

錦村助役推薦村會は二十一日再々作製し管内常設映畫館に交付び招集したが、前回同様民政派の議員五名だけ出席し死亡失格となつた議員の方が多いため流會となり近く村議五名の補欠選挙を行つて助役推薦を行ふ事になつた

自肅自戒の正月 勿來町で申合せ

勿來町經濟更生委員會では正月では平素と協力、感胃に對處する方法を講究中であるが、取敢へず一般家庭にマスク、含刺の勵行を行ふやう通牒を發したと用心警察署といふスライド

中支へ送られた 『生きた慰問袋』

此附近は如何に激戦であつたかを現在でも物語らんとして居るものに無数の竹箴がある即ち此附近の竹箴が地上三、四尺の所から大部分が彈丸のために打ち折られてゐる事だ。即ち砲彈彈頭の形容詞を此竹が表現して居る。一行は警備隊に深達なる感銘を表して歸路に付く。途中新らしく建てられた大場鎮の表忠塔へ車を停めた。大場鎮は曠野の真中にある。兵隊さんが戦

中島湖洲記

友のために作つたといふ三丈にもあまる大場鎮の表忠塔は鉛色の空を突いて小雨にぬれて居た。私共は合掌禮拜して(表忠塔裏面の碑文) 大場鎮、惡戦力闘、三個月包圍被擄、幾不巳、神哉激陣、旭旗飄、欲饒忠靈、幽寂哀中支派遣軍最高指揮官、陸軍大將 松井石根、大場鎮を後に小雨降る中を凸激しい道を揺れながら午後

十九日一万三千五百圓、いか、ひらめ、たこ類は十八日一万八千圓、十九日一万六千二百圓、二十日平均五十五圓三百圓か十八日は二十七圓、十九日二十二圓が積出され二日間の漁獲積出し六萬圓、千五百圓に達してゐる

山田村で 村議改選

山田村會議員は二十五日行はれるが、二十一日朝までに立候補したものには山田嘉一郎、安島實、小澤道太郎(新)、大井川裕藏、川原吹傳(新)、坂本徳次郎(新)の六氏で、定員十二名に對し候補者十五名位になるものと察せられてゐる

捕賊の表彰

刑事協會平支部では犯人逮捕の功により左記各氏を表彰した(淺野安治平)大谷順治(湯本)高橋ます(小名濱)

戦死者公葬

△小名濱町陸軍歩兵上等兵小野が出来る。租界の料理屋でも電車の中でも日本語は通じなかつた。共英語は必ず通つた。租界の銀座とも言ふべき南京路をいく支那の青年男女は、必ず腕を組んで歩く、もし婦人同伴でカフネー入るなら、ボーイは必ず婦人の方から差出すであらう。すべてが歐米式だ。上海の租界は地理的に支那にあるが、建物から生活のすべてが英米の植民地の感がある。先生園と云ふ支那料理屋で腹一パイ御馳走になり、緩いて夜の街を漫歩し、キャバレーに入り樂しさを踊る人々を眺め、此處を出て二階造りのバスに乗つて見た。数台も連結した市電電車がびくびくしながら見物客を濟し十一時三十分歸宿した。

連日の豊漁で 泉驛賑ふ

警城各漁は連日鰯と底曳鰯のひらめ、いか、たこ等が豊漁功により左記各氏を表彰した(淺野安治平)大谷順治(湯本)高橋ます(小名濱)

山田村で 村議改選

山田村會議員は二十五日行はれるが、二十一日朝までに立候補したものには山田嘉一郎、安島實、小澤道太郎(新)、大井川裕藏、川原吹傳(新)、坂本徳次郎(新)の六氏で、定員十二名に對し候補者十五名位になるものと察せられてゐる

寅吉、狩野秀勝兩君町町事は二十七日午前十時小學校で執行する
△勿來町大津難雄伍長の町事は二十七日勿來校で行ふ

久濱の火事
二十一日午後十時四十分頃久濱町宇東町一六の二古物商金澤松次郎(五六)方から發火、住家一棟を全焼して十一時半頃火し九が損傷四百圓で原因は小兒の弄火である

愛國筆
文部省習字科檢定委員 鈴木翠軒先生御選定

清樂筆
一本金拾錢より金五圓迄

文魁文堂
電話313番

三井吳服店
電話38
適正價格...秋冬荷揃へ
常に商品豊富
御用命は.....
平市 三井吳服店

平市人專錄
△出生 三町目目下札幌郡丸山町田山金藏二男公平、四町目十五、目下京城西四軒町山十三鈴木平長男彰一郎、研町四橋本利三女美代子

天氣豫報
今晚北ノ風曇リ天氣次第ニ惡クナル 明日北東ノ風

吸入用酸素純度99%

モノサシ
ハカリ
マス
体温器
寒暖計

寫眞機
材料一式

關内藥局

電話四〇〇番

日記及年賀はがき類は用紙不足の折にも
不拘豊富に取揃へました、買切れませぬ
うちに御買上願ひます。

新日記

昭和十五年度
當用日記・ポケット日記
特種日記——百數十種
新年繪はがき・年賀はがき
一年賀用特種私製はがき
花かるた・トランプ・百人一首
☆慰問袋に一点きつと喜びます☆

マルトモ 柴田書店

平市四丁目 電話二三四番

尚ほ季節料理

御婚禮 御法事
御會食 御宴會
平市田町 電話一七一番
料理部

貸地廣告

平市宇新田前二六番ノ一 (縣道ニ副フ西側)
間口四間一分 六十坪
奥行 十五間
貸地料一坪二十五錢ノ割
洋細ハ左ニ御問合セ下サイ
平市大町
中野勇吉商店
電話一三三番

干やなぎ いか切込み

平市土橋
丸仙商店
電話六六二番

漢方 生公華
貼藥 濕布で名藥
助膜・氣管支・關節・神經痛・肺
炎・ロイマチス・扁桃腺・中耳炎・骨
膜・腰痛・ち疾に
藥價 二四五十錢
八 四 四
平野邊藥局
山野邊藥局
平野邊藥局

開業
内臓外科
整形外科
平市大町二番地
内木外科醫院
醫學博士 内木宗八
入院隨時

内小兒科
病室完成
入院隨意
自炊の便あり
四倉町本町
菅波醫院
電話六三番

平病院
院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 土井利明
内臓外科 副院長 高橋俊幸
一般外科 院長 鈴木定藏
皮膚泌尿器科 院長 鈴木定藏
物理療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平

産科・婦人科
平市田町
井坂醫院
電話五五九番
入院隨時

鋭後の作家計費引下
十日のガレキスネーを
平マアケド
電話一〇〇番

内小兒科
平市南町
志賀醫院
電話一六二番
(入院ノ需ニ應ズ)

内科外科
エックス光線
産婦人科
院長 安齋 徹
平市田町 (電話四五七番)
安齋醫院
入院隨意

内臓外科
レントゲン科
北川外科
醫學博士 北川 芳夫
平市新川町 (電話四六四)

内外科一般
金成醫院
金成 忠義
平市鎌田町 (電話三五八番)

花柳病科
泌尿器科
皮膚科
門專
診療 午前八時より
午後九時まで
時間 午後九時まで
(入院隨意)
平市田町 (電話六九二)
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎